



## 6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 立ち枯れ</p>	<p>(今月の作業のポイント) ヒノキ立ち枯れの防止</p> <p>8月26日高松气象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の天気は短い周期で変わり、気温は平年並または高い、降水量は平年並または多い見込みである。</p> <p>作業に当たっては、こまめな水分補給をするなど熱中症の予防に留意することが必要である。</p> <p>ヒノキは、林道の開設や隣接した林分の伐開など新たに林縁となった部分では、急激な環境の変化が樹木にとってストレスとなり衰弱することがある。また、強度な間伐を行った場合にも、残存木で水ストレスが増大し衰弱することがある。ヒノキは衰弱が著しい場合は枯死するが、スギにおいては間伐後の立ち枯れはほとんど報告されていない。</p> <div data-bbox="598 1099 1139 1447" data-label="Image"> </div> <p>写真1 林縁木の立ち枯れ</p> <div data-bbox="590 1574 1147 1944" data-label="Image"> </div> <p>写真2 強度な間伐による立ち枯れ(間伐率60%)</p>

項 目	作 業 内 容
( 2 ) 林業害虫	<p>衰弱した樹木では害虫による被害が発生しやすくなる。マシダクロホシタマムシという甲虫は、幼虫がスギやヒノキの内樹皮（樹皮の内側）を食害する。内樹皮を傷つけると、樹木が健全な場合は樹脂がでてきてこの虫の被害を受けないことはないが、樹木が衰弱した場合には樹脂が出ず被害が発生する。衰弱した樹木にマシダクロホシタマムシが集団で加害すると立ち枯れが生じる。強度な間伐は、これら害虫に多くの餌資源を提供することになるので昆虫の発生密度が高くなり、残存木の立ち枯れが生じやすくなると考えられる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="475 763 895 1037">  </div> <div data-bbox="963 763 1383 1037">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="475 1048 847 1137"> <p>写真3 マシダクロホシ タマムシ（成虫）</p> </div> <div data-bbox="954 1048 1326 1137"> <p>写真4 マシダクロホシ タマムシ（幼虫）</p> </div> </div>
( 3 ) 間伐作業	<p>ヒノキの立ち枯れを防止するには樹木を衰弱させないことが大切で、間伐作業においては選木と間伐率に気をつける。</p> <p>林内とその周辺の状況をよく観察したうえで、選木の方針と間伐率を決定する。選木にあたっては、成長の遅れている木、形質の悪い木ばかりでなく、成長の良すぎる木（暴れ木）も伐採することとし、50%を超えるような極端な間伐は避ける。特に、間伐作業が遅れている林分、南向きの林分、尾根に近い林分では、選木の方針と間伐率を十分に検討する。このことは立ち枯れの防止のみならず、台風等による風倒木被害の防止にもつながる。</p>
( 4 ) その他	<p>ヒノキに限らず年に1度は森林を見て回り、林木の成長や病害・虫害が発生していないかを確認する。また、台風シーズンを迎えるにあたり、林道や作業道についても併せて見回りを行い、災害の防止に努める。異常を発見した場合やわからない事があった場合は、地元の森林組合、または各森林林業課に問い合わせ適切な処理に努める。</p>

（作成 林業研究センター）